

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	HIV に対する意識啓発と予防スキル取得によってチェンマイ県の青少年の HIV 感染が減少する。 現状値：50 人（過去 3 年間の 10 代 20 代の新規感染者数の年平均） 目標値：30 人
(2) 事業内容	当事業では、3 年間でチェンマイ県内全ての高等専門学校（18 校）を対象にした活動を計画しているが、以下は第 1 期の中間報告として、2013 年 8 月 1 日から 2013 年 12 月 31 日までに 6 校で実施した活動について記載する。事業は計画通り行われている。 ① 高等専門学校職員への事業説明会（8 月、第 1 期活動終了）：チェンマイ県保健局職員らと共に 6 つの高等専門学校を訪問し、理事長含め学校職員に当事業の説明を行うことで、当事業への理解と協力を得ることができた。 ② 高等専門学校職員・高等専門学校生代表・チェンマイ県保健局職員・感染症対策室への合同事業説明会（8 月、第 1 期活動終了）：関係者 60 名を招いて当事業の開会を宣言し、今後の事業の方向性を確認した。 ③ 大学生ピアエドゥケーターリフレッシュ研修（8、9 月、第 1 期活動終了）：当団体が今まで育成してきた大学生ピアエドゥケーターが、最新の HIV/AIDS 情報を学び、高等専門学校のピアエドゥケーターを指導できるように研修を行った。6 大学から参加した計 46 名の大学生ピアエドゥケーターを再教育した。 ④ 高等専門学校生ピアエドゥケーター育成研修（9 月、第 1 期活動終了）：HIV/AIDS に関する知識を得たうえで、ピアエドゥケーターに必要なリーダーシップ能力や活動計画書作成能力等が身につくように研修を行った。6 つの高等専門学校から計 121 名の高等専門学校生ピアエドゥケーターを育成した。 ⑤ 高等専門学校の職員を対象にしたピア教育のカリキュラムや教材作成のための会議開催（8 月、9 月、第 1 期活動終了）：当団体が大学生向けに使用していた教育教材を、高等専門学校の生徒に適した内容に変更するために話し合いを行った。大学生対象の教材よりも簡潔で分かりやすい教材を作成した。 ⑥ 学校内ネットワーク月例会議と研修後のフォローアップ（8、9、10、11、12 月、活動継続中）：各学校の高等専門学校ピアエドゥケーターや担当教員と共に活動案やメディア教材作成について議論し、必要なサポートを行った。 ⑦ ピア教育プログラム企画・メディア開発の発表会（10 月、第 1

	期活動終了)：高等専門学校生ピアエドゥケーター60名が独自のアイディアで企画したピア教育プログラムや、自ら作成したメディアを発表した。HIV感染予防を訴えるショートフィルムやチラシ、また学内に設置するコンドーム箱らのアイディアが発表され、専門家から更なるアドバイスをもらった。 ⑧ ピア教育活動(11、12月、活動継続中)：報告期間内では5つの高等専門学校で5回のピア教育(計619名参加)、6つの学校で計7回の特別キャンペーン(計1850名参加)を実施した。また、世界エイズデーには移動検診車を使い、高等専門学校やデパートで3回のHIV抗体検査(計158名が受診し、そのうち57名が当事業の対象年齢14～19歳)を実施した。 ⑨ 四半期会議の開催(11月、活動継続中)：チェンマイ県保健局職員や学校職員、ピアエドゥケーター等48名参加し、今後のピア教育の計画等を話し合った。
(3) 達成された効果	上記の通り、中間報告までに121名のピアエドゥケーターが育成され、合計619名の学生がピア教育に、1850名が特別キャンペーンに参加している。申請書に記載した6つの指標のうち、中間報告の時点で把握できるものは以下の4つである。 指標1.『ピア教育に参加した高等専門学校生の予防意識チェックリスト・HIVに関する知識テストの結果が少なくとも70点以上になる。』11月には5つの高等専門学校でピア教育を実施し、計619名が教育を受けた。ピア教育活動実施前のテスト結果は平均69点であったが、実施後のテスト結果の平均は98点であった。 指標4.『高等専門学校生ピアエドゥケーターのHIV/STI知識テスト(目標値：9割の学生が90点以上)、リーダーシップ能力とライフスキルのチェックリスト結果(目標値：70点以上)が事業開始前より向上し、ピア教育を企画・実施できる(目標値：最終ピア教育が100%学生のみで自立して実施し、かつ100%の学校のピアエドゥケーターが次年度のチェンマイ保健局に対する予算申請書を作成する)。』高等専門学校生ピアエドゥケーター育成研修後に121名を対象に実施した知識テストでは、平均93%の正解率であった。121名中、90点以上は95名で、79%の達成率である。事業終了時のテストで90点以上の学生が9割になるように知識の強化を目指す。リーダーシップ能力とライフスキルのチェックリストは事業後半で使う予定である。 指標5.『高等専門学校職員が70%以上の活動に参加し、ピア教育手法の知識と実施支援スキルを身につける。』高等専門学校職員は学校につき2名ずつが活動を担当しているが、担当職員は全てのピア教

	育活動に参加している（100％）。ピア教育活動の意義を理解し、積極的にピアエデュケーターと関わり支援している。 指標 6. 『学生と関係者間のネットワーク構築』 ピアエデュケーター全員が県保健局や性感染症クリニックの担当者、PHJ スタッフなどの連絡先を記した名簿を持っており、いつでも連絡できるようになっている。特別キャンペーンの際には、ピアエデュケーターたちは学校の枠を超えて活動実施で協力している。また彼らはウェブサイトや Facebook でつながっており、情報交換が盛んに行われている。 上記に記入のない指標に関しては、事業後半に情報収集を行う予定である。
(4) 今後の見通し	事業は計画通り進んでいる。今後は、養成した高等専門学校生ピアエデュケーターが各校でピア教育を行うほか、ピア教育ルームの開設に着手する。また彼らによる後輩ピアエデュケーター育成研修も行うことで、事業の自立発展性を高める。